

**製品名: ニューレキシン I ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14596**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, IHC 1:50-1:300
分子量	150kDa

**抗原情報**

遺伝子名	NRXN1
別名	NRXN1; KIAA0578; Neurexin-1-alpha; Neurexin I-alpha
遺伝子 ID	9378.0
SwissProt ID	Q9ULB1
免疫原	抗血清はヒト NRXN1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 502-551

**背景**

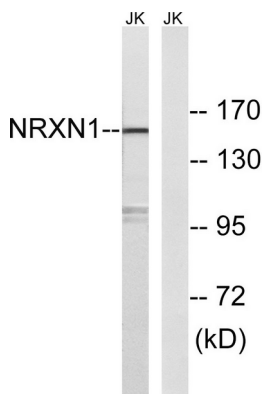
NRXN1 (ニューレキシン 1) は、ニューレキシンファミリーに属する I 型膜貫通タンパク質をコードしています。ニューレキシンは細胞表面受容体であり、中枢神経系のシナプスにおいてニューロリギンと結合して Ca(2+)依存性ニューレキシン/ニューロリギン複合

体を形成します。この複合体は効率的な神経伝達に必要であり、シナプス接合の形成に関与しています。この遺伝子ファミリーの3つのメンバーは詳細に研究されており、2つの選択的プロモーター（ $\alpha$ および $\beta$ ）と各ファミリーメンバーにおける広範な選択的スプライシングの利用により、3,000以上のバリエーションが生成されると推定されています。最近、NRXN1の3'領域に3つ目のプロモーター（ $\gamma$ ）が同定されました。NRXN1の変異はピット・ホプキンス様症候群2と関連しており、統合失調症の感受性に寄与している可能性があります。細胞形態形成、分化に関わる細胞形態形成、細胞運動、細胞接着、細胞間シグナル伝達、シナプス伝達、軸索形成、軸索誘導、シナプス形成、神経インパルスの伝達、生物学的接着、細胞投射の組織化、ニューロンの分化、ニューロン投射の発達、細胞成分の形態形成、細胞部分の形態形成、細胞外構造の組織化、ニューロンの発達、ニューロン分化に関わる細胞形態形成、ニューロン投射の形態形成、細胞投射の形態形成、シナプスの組織化、神経系のプロセス、

## 研究分野

細胞接着分子 (CAM)

## 画像データ



NRXN1抗体を用いたJurkat細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。